

報道機関各位

熊本大学企画部企画課広報室

第3回熊本大学学際セミナー

「未来社会における我々の役割と責任」を開催します。

熊本大学では、このたび、大学院社会文化学研究科、同自然科学研究科、同医学薬学研究部主催によるセミナーを開催します。一つのテーマについて、学問領域の壁を越えて議論し、未来に向けて学問・研究の在り方を考えます。

つきましては、広く一般の方へお知らせいただくとともに、当日の取材方、よろしくお願いたします。

記

【日 時】平成19年8月8日(水) 13:00~17:00

【場 所】熊本大学工学部百周年記念館(黒髪南地区)

【件 名】未来社会における我々の役割と責任 新しい規範と関係を求めて

【プログラム】

[挨拶] 阪口薫雄 熊本大学副学長

[講演] <講演内容については別紙参照>

1. 「思想・文学の視点からの日本社会論」 坂元昌樹 文学部准教授(日本近代文学・思想)
2. 「正常と異常・健康と病という秩序」 北村俊則 大学院医学薬学研究部教授(臨床行動科学)
3. 「21世紀のケアと倫理」 宇佐美しおり 医学部保健学科教授(精神看護学)
4. 「医療と社会の新しい関係へ」 田口宏昭 文学部教授(医療社会学)
5. 「合意形成の新しい形」 稲葉一人 姫路獨協大学法科大学院教授・熊本大学客員教授(民事訴訟法、生命・医療倫理学、裁判外解決学)
6. 「人間と環境の関係はいかにあるべきか」 中田晴彦 大学院自然科学研究科准教授(環境毒性化学)
7. 「人間と科学技術の新たな関係構築に向けて」 檜山隆 大学院自然科学研究科教授(電力システム工学)

[質問と討論]

【参加対象】どなたでも

入場料無料、申込不要です。

~お問い合わせ~

人文社会科学系事務部総務係 相川
TEL: 096-342-2398

<テーマの意図>

20世紀後半からの科学技術の進展はめざましく、21世紀にはその進行が加速度的に速まることがきわめて高い確率で予想されます。その進展によりこれまで生命、環境、情報等の領域で生じてきた諸問題は、ますます先鋭化し個々の領域での個別的な対応では収拾できなくなると考えられます。このような状況下で、人間、社会、生命、自然、科学技術の相互の関係を捉える総体的な枠組みを問うことの重要性が認識されてきています。

こうした事態を踏まえ、「未来社会における我々の役割と責任」という学際セミナーの統一テーマのもとで、これからの日本社会のあり方を、思想・文学の視点から、医療と社会という視点から、新しい合意形成という視点から、また人間と環境との関係、人間と科学技術との関係という視点から、それぞれの分野の専門家が自由に論じ合います。人間や自然はもとより、社会や科学技術の生み出す人工物の世界も一種の生命と捉えることができるならば、それらに共通する枠組みも可能でしょう。このセミナーでは、人間と人間の望ましい関係の考察を基盤として、人間、社会、生命、自然、科学技術の間のあるべき関係や、今後の日本社会に相応しい規範についての手がかりを得ることをめざしています。

<講演内容>

1. 「思想・文学の視点からの日本社会論」

<内容> 思想・文学の視点から近代日本の生命思想に焦点を当てて、その登場の背景を探るとともに、日本思想・文化の特質と生命との関係、また現代における生命思想の意義について述べる。

2. 「正常と異常・健康と病という秩序」

<内容> 精神の異常と正常の区別、疾患と健康の区別が、医学的根拠ではなく社会の価値を反映していることを述べるとともに、このことと性同一性障害やライ予防法問題との関連、また社会の価値の再検討について考察する。

3. 「21世紀のケアと倫理」

<内容> 日本では患者の自律は難しいとされるが、最近のセルフケアの重視からも伺えるように、看護師は患者に寄り添いつつ自律を支えるという仕方での関わりが求められている。これは人間関係の一つのモデルでもある。

4. 「医療と社会の新しい関係へ」

<内容> 生体腎移植を例にとりながら、医療制度を適切に評価する仕方について考える。評価においては、機能分析の手法の洗練化とともに、その手法と多元的価値の承認とを調停することが必要であることを述べる。

5. 「合意形成の新しい形」

<内容> 個人間の紛争において、当人どうしで解決するモデルや第三者が裁判官のような仕方では介入するモデルに代わる「促進型調停モデル」の有効性と意義を、国内外の事例を挙げて説明する。ここにはケアと自律の場合に類似した関係がある。

6. 「人間と環境の関係はいかにあるべきか」

<内容> 地球温暖化と有害化学物質汚染に焦点を絞り、実証的データを挙げながら現状を述べるとともに、将来予測の困難さ、予防原則の意義、そして環境と技術とのあるべき関係を考える。

7. 「人間と科学技術の新たな関係構築に向けて」

<内容> 電力技術を例に挙げて技術者の倫理的責任について考察するとともに、人間、社会、自然の関係が人工物の介在によって大きく変化したこと、それらの中の新しい関係構築が緊急の課題であることを述べる。